

アルジェリアの旅 地中海沿岸の古代遺跡と沙漠のオアシスを巡る15日間

No	日付		時刻	概要
1	10/5	土	羽田→ドーハ (QR4851・JL059)	HND 22:50→DOH 04:40 待ち時間4時間20分
2	10/6	日	ドーハ→アルジェ (QR1379)	DOH 09:00→ALG(ウアリ・ブーメディアン空港) 14:05
			アルジェ/カスバ探索	映画『カスバの女』や『望郷』のロケ地としても有名な アルジェの旧市街カスバ 。起伏に富んだ地形を這うように建てられた白塗りの家々、伸びる曲がりくねった細い路地を歩けば、突如として目の前に開ける地中海の景色が広がる。巨大な迷路にでも迷い込んだような感覚に陥りながら、どこを見ても絵になる美しい風景を散策。オスマン帝国の宮殿、廃墟の城塞、17世紀に建設されたケチャウアモスクや、大理石の柱とアーチが美しいグレートモスク、大きな銀色のドームとモザイクが特徴的な崖の上に建つカトリック大聖堂などが見どころ。
3	10/7	月	ティパサ、シェルシェル	世界遺産ティパサ は、首都アルジェから西へ約70kmの位置にある遺跡群。紀元前6世紀に地中海に多くの植民都市を築いたフェニキア人によって作られた都市。紀元前1世紀に築かれたマウレタニア霊廟と呼ばれる円形の墳墓は、エジプトやギリシャなどとの関連性が見られるもの。その後、ローマの植民都市として栄え、3~4世紀に建造されたバジリカや大聖堂の跡地が残っていて、特にバジリカは当時の北アフリカでも最大規模の建築物であった。しかし、6世紀になるとビザンツ帝国によって征服され、徐々に衰退し、7世紀には無人の街となってしまった。シェルシェルは古代ローマ時代、カイサリアという名の古代都市で、当時は輝かしく繁栄していた場所でした。現在、町にはローマ時代の遺跡がいくつも残されており、当時の様子を物語っています。これらの遺跡は何世紀もの違いのある町並みに溶け込んでいる。
4	10/8	火	アルジェ→ベニ・ハマッドの要塞都市→セティフ(360km、6h)	世界遺産ベニ・ハマッド は11世紀のハンマード朝の繁栄を象徴する北アフリカで最も栄えた町だったが、1152年にはムワッヒド朝によって破壊された。イスラーム都市の廃墟であるこの城塞の内部には、7kmにわたる城壁が築かれており、モスク、ミナレット、宮殿群などの多くの史跡が残る。
			セティフ(360km、6h)	標高1096mの高原にある町セティフ。紀元前、古代ヌミディア人たちが築いたエリアに、ローマ帝国の退役軍人たちの町が築かれた。7世紀後半にはイスラーム帝国の支配下に入り、19世紀半ばにはフランスの植民地となったため、市内にはフランス統治時代の建物が多く残る。

5	10/9	水	セティフ→ジェミラ→コンスタンティーヌ(170km、3h)	山村「ジェミラ」は、アラビア語で「美しいもの」を意味する。 世界遺産ジェミラ遺跡 はローマ帝国時代に建設された要塞都市。標高900mのなだらかな丘に広がる広大な遺跡で、最盛期には人口が12000～15000人になった。神殿や凱旋門、劇場など様々な建築物が千数百年の風雪に耐え良く残っている。また大通り、公衆浴場、水洗式の公共トイレなど当時の暮らしの様子がうかがえる。
6	10/10	木	終日コンスタンティーヌ見学	コンスタンティーヌは断崖絶壁に囲まれた要塞都市。周囲が峡谷であるため、街と街を繋ぐ美しい橋が8つある。イスラムの学術都市といった重要な役割を果たしている地でもあり、アルジェリアで3番目に大きな都市である。旧市街、エミールアベデルカデルモスク、アーメドベイ宮殿、シディ・ムシド展望台など見学。
7	10/11	金	コンスタンティーヌ→(ティムガッド遺跡)→バトナー→ビスクラ(230km、4h)	午前、 世界遺産ティムガッド遺跡 の観光。ティムガットは、1世紀にローマ皇帝トラヤヌス帝によって築かれた植民都市。「アフリカのポンペイ」と呼ばれるほどに保存状態がよく、基盤目状の区画に、東西南北に貫く基幹道路という典型的なローマの都市計画によって造られた。アルジェリア最大のローマ遺跡。見どころはトラヤヌスの凱旋門。その堂々たる姿に圧倒される。
8	10/12	土	ビスクラ→エル・ウェッド(230km、3h)	エル・ウェッドは地下水が豊かな砂漠のオアシスの街。砂漠気候のため、夏には厳しい暑さになるが、太陽の熱の影響を和らげるため各建物にはドーム状の天井があり、この景色より別名“千のドームの町”として知られている。敷地内にプライベート沙漠がある豪華リゾートホテルに宿泊。ラクダに乗って散歩をしたり、ジープで砂漠を駆け回ったり、4輪バイクを操作して砂漠を走ったりなどのアクティビティあり。
9	10/13	日	エル・ウェッド→ガルダイア(400km、6h)	アルジェリア中部に広がるムザブ地方。首都アルジェの南方約600キロに位置し、岩だらけの高原地帯である。現在のムザブは5つのオアシス都市の集合体に、後から2つの町が加わった合計7つの町が「ムザブの谷」という名称で世界遺産に登録されている。千年ものあいだ伝統的な暮らしを守り続けてきたムザブには、エキゾチックで魅力的なスポットが盛りだくさん。
10	10/14	月	ガルダイア	11世紀にムザブ族が築いたサハラ砂漠のオアシス都市ガルダイア。ムザブの中でも特に美しい中世の街並みが残されていて、 世界遺産ムザブの谷 のなかでも人気の観光スポット。ガルダイアは別名サハラの宝石とも呼ばれていて、美しいオアシスとして知られている。モスクを頂点にパステルカラーのかわいらしい家がピラミッド型に建てられ、どの家からもモスクが見える。アルジェリアの中でも際立った異空間が広がる。ガルダイアの中心部にある市場からは細い路地が四方に広がり、たくさんの小さなショップが軒を連ねる光景は圧巻。終日、ムザブの谷を観光(ガルダイアの市場、メリカのシディ・アイサの墓、エル・アテフのシディ・イブラヒムの墓、ベニ・イスゲン等)。

11	10/15	火	ガルダイア→エル・メニア→ティムムン(650 km、7.5h)	砂漠地帯をティムムンに向かう。途中のオアシス・エル・メニアでシャルル・ド・フォーコー(フランス人神父、探検家)が埋葬されている教会、クサール(城砦)跡を探索。
12	10/16	水	ティムムン	グランド・エルグ・オキシデンタルと呼ばれる巨大な砂丘地帯の端にあるアルジェリア最大のオアシスの町ティムムン。ベルベル文化が根付く町には、赤土れんが造りの建物、緑のヤシの木、オレンジ色の砂の風景が広がる。かつてサハラ砂漠を横断する隊商たちの交易の街として栄えた。メインストリートはハラティン、ベルベル、マリの商人など多種多様な人々が行き交いにぎわう。
13	10/17	木	ティムムン→アルジェ	<p>■空路、アルジェへ。 Algerie6161 Timimoun(TMX)10:20→ALGIERS12:40。着後、市内観光</p> <p style="text-align: right;">Air</p>
14	10/18	金	アルジェ市内観光	■午前中、自由。ホテル出発12時ごろ。
			アルジェ→ドーハ(QR1380)	ALG 15:40→DOH 23:55
15	10/19	土	ドーハ→羽田(QR4850)又はドーハ→成田(QR806)	<p>DOH 02:35→NRT 18:55 →HND 23:55</p> <p style="text-align: right;">DOH 07:15</p>